

グリーン株式会社
取締役 執行役員 常務
最高技術責任者 開発本部長
藤本真樹

世界とプログラミングの腕を競うコンテスト

“Samurai Coding”に グリーンが込めた思い

情

報処理学会とグリーン株式会社が開催中のプロ
grammingコンテスト「PSJ International
AI Programming contest “Samurai Coding”」の
決勝が、12月9日に東京で開かれる。NCSA（北
南アメリカ）、EMEA（欧州・中東・アフリカ）、
PAC（アジア太平洋地域）、日本の4地域で行われ
た予選を勝ち抜いてきたチームが決勝に参加。自分た
ちの開発したAIプログラムの優秀さを競い合うこと
になる。

様々な形式のプログラミングコンテストがある中で、
“Samurai Coding”が世界4地域の若手エンジニア
の腕を競わせる形式にしたのは、どのような狙い
があったのだろうか。このコンテストに込めた思い
について、グリーンCTO（最高技術責任者）の藤本
真樹氏に話を聞いた。

世界との交流による刺激で、

日本の若手エンジニアの底上げを

「アメリカのApp Storeランキングを見ると、普通
に日本企業製のアプリが上位に入っています。1年前
は『日本のアプリを世界に持ち出しても成功するか分
からない』と言われていましたが、ここ半年ほどで実
績が増え、『世界でも十分に戦える』という手応えを
得た日本企業も多いのではないのでしょうか」

グリーン自身も複数のタイトルが上位にランクイン。
8月時点でApp Store全体のトップ100に4本以
上のタイトルを送り込み、Electronic Arts、Disney
といった有名企業と肩を並べている。

今後、グローバル展開をさらに推進していくとす

るグリーンだが、世界で戦っていくためには「グリーだ
けでなく、日本の若手エンジニア全体の底上げが必
要」と考えるようになったという。

「日本の若手エンジニアには、優秀な人がたくさん
います。ですが海外と比べると、外部との交流が不足
している印象があります。特に中国の若手エンジニア
には競争意識の高い人が多く、プログラミングコンテ
ストで腕を磨いていますから。」

大学の講義や研究を通じて技術力を身に付けること
は大切ですが、外部と交流し、いろいろな人とつな
がりを持つことで初めて得られる経験もあります。

世界中のいろいろな人とカジュアルに競争できる場
を用意して、そこでレベルアップしてほしい。『グリー
としてプラスになるか』ではなく『日本の若手エンジ
ニアのレベルアップにつながるか』という視点から
“Samurai Coding”を企画しました」

エンジニアに必要な、深く広い技術、を

吸収し続けられる基礎体力を問う

“Samurai Coding”では、“サムライ”と“ドッグ”、
2種類のエージェントをAIで動かす、自チームの領
土を拡大していく。AIはCやJavaといった特定の
既存言語ではなく、コンテスト用に準備された専用言
語で作成する。スタートラインをそろえることで、エ
ンジニアとしての基礎体力を測ろうとしたのだと藤本
氏は言う。

「この2〜3年でエンジニアに求められる技術の幅
が広がり、基礎体力が問われるようになってきました。
グリーンにしても、社内で使われている技術の幅は広



「質があるかどうかを見ようとしている。Webサービスを開発する上で大切なのがその資質。Webサービス業界で求められる資質を持つている人に、「相手がいる中でインタラクティブを楽しむ」ことの魅力に気が付いてもらうことを意図している。

プログラミングコンテスト以外にも、業界活性化の取り組みを幅広く展開

グリーは「Samurai Coding」以外にも若手エンジニアの刺激になり、日本のWebサービス業界を盛り上げるための取り組みを展開している。

例えば、スマートフォンが普及したことで、スマホ向けのサイトやアプリを開発することが日本企業の間では急務になってきた。しかし、iPhone/iPadのOSであるiOSは、日本企業が自社サイトでよく使っているOSには非対応である。そこでグリーは自社で蓄えてきたノウハウを活かし、Flashコンテンツから変換したアニメーションデータをUnityとHTML5で再生できる開発支援ソリューション「Lightweight SWF」をリリース。もっと気軽にスマホ向けのサイトやアプリを開発できるように、オープンソースソフトウェアとして公開した。

そのほかにも「スマホと言えばグリー」と名が知られているだけに、エンジニア向けのカンファレンスにグリー社員が講師として招かれることがよくある。そうした機会には進んで参加して自社の技術ノウハウを披露。さらに月2〜3回は自社セミナーを社外にも開放し、アジアイルやエムエス等の旬のテーマで勉強会を開くなど、業界全体の活性化のために労を惜しまないでいる。

世界中で利用される日本発のWebサービスを目指すチャレンジ。このチャンスをぜひ一緒に楽しんでもらう

グリーは世界各地に開発拠点を設け、日本以外から

も新卒社員を採用している。ある意味「Samurai Coding」と同様に世界と競い合わなくてはいけない状況。「世界が相手だから」と尻込みしてはいられなくなっている。

「今後も日本人だけを採用する企業は減っていくでしょう。日本の学生は当たり前のように世界の学生と競争を迫られる時代に入ってきました。競争を避けていては、日本自体が縮小してしまいます。今はすごく大事な時期です。グローバルでチャレンジできる人材を育てられるように、グリーとしてもいろいろな形で刺激を与えていきたいですね」

ただ、逆に「世界と競う」状況がチャンスにもなると藤本氏は指摘する。

「アメリカやイギリス、中国、韓国に拠点を築いたことで、日本のエンジニアが技術的に世界と戦えることがよく分かりました。戦後の日本産業界は、まず自動車の世界で有名になり、続いてソニーなどの家電メーカーが衝撃を与え、そしてゲームやアニメなどのコンテンツが世界中に浸透しています。ですがインターネットの世界では、まだ日本発で世界中で利用されるサービスはありません。これからチャレンジすべき産業なのではないでしょうか。」

グリーは順調に成長してきています。グリーが世界中で利用されるサービスになることで、日本に恩返しをしていきたいと考えています。

そのためのチャレンジを、本当に優秀な学生さんと一緒にしていきたいですね。せっかくチャレンジできる面白い環境がグリーにはあるわけですから、ぜひ一緒にこのチャンスを楽しんでほしいです」